

令和7年度第1回米子市総合教育会議 議事概要

■日時

令和7年8月25日（月）午後1時30分から午後3時

■場所

米子市役所本庁舎5階 議会第2会議室

■議事

- （1）家庭教育の充実について
- （2）米子市における部活動改革について
- （3）不登校対応の現状と今後について

■出席者

市長 伊木 隆司
教育長 浦林 実
教育委員 白井 靖二
教育委員 荒川 陽子
教育委員 塩地 淳子
教育委員 永井 善郎

■出席職員

総合政策部長 佐々木 俊二
総合政策部次長兼総合政策課長 中本 教聖
総合政策部総合政策課総合戦略室係長 遠藤 志穂
こども総本部長 瀬尻 慎二
教育委員会事務局長 長谷川 和秀
こども政策課長 永榮 一博
こども政策課担当課長補佐 佐藤 祐佳
こども政策課担当課長補佐 宮中 僚介
こども政策課係長 砂場 雄一郎
教育委員会事務局次長兼こども施設課長 矢野 伴典
こども施設課課長補佐 前畑 昇吾
こども支援課課長補佐 田中 喜之
教育委員会事務局次長兼学校教育課長 仲倉 昭雄
学校教育課課長補佐 平野 勝久
学校教育課担当課長補佐 鉄尾 知史
学校教育課担当課長補佐 木村 和仁
生涯学習課長 田中 崇詞

学校給食課長 長谷川 百合子
文化振興課長 大塚 一平
スポーツ推進課課長補佐 松永 祐樹

■傍聴者数

3人

【議事概要】

■議事（１） 家庭教育の充実について

家庭教育の充実について、資料１に沿って事務局から説明。

【委員意見】

- 家庭教育に長年携わってきた経験から、保護者の意識向上の重要性を強く感じている。啓発の機会を提供しても参加しない保護者がいるため、子どもが必ず集まる運動会等の行事でPRが必要であり、また、父親の参加促進も必要である。親も子どもと共に成長すべき存在であるが、その意識が薄れつつある。保護者への教育の機会、意識向上の機会を提供していくことが重要である。
- 家庭内における親子のコミュニケーション不足を懸念している。若い保護者の中には、子どもとの接し方に悩む人も多いのではないかと。家庭は子どもにとって安心して穏やかに過ごせる場であるべきである。感情的にならずに接する方法や叱り方等を講座を通して保護者が学べる支援を実施していただきたい。
- 「そうだね運動」のように、子どもの言葉を一度受け止め、共感し、対話を重ねることが重要である。親も親としての成長の途中であり、相談機関の利用や、学校から配布される資料の活用を通じて、子どもから親に話をする機会へとつながるよう家庭での実践を行っていただきたい。
- 米子市における小中一貫教育やオープンスクールなどの取組は非常に充実している。一方、スマートフォンやAIの普及により、情報は得やすくなったが、主体的に考える機会が減少し、親が子どもとの接し方に戸惑う傾向があるのではないかと。市の取組をより効果的にするためには、講演会を継続的かつ頻繁に開催すること、またSNSや広報誌等多様な媒体を使った情報発信の強化が必要である。さらに、生活習慣の重要性等を科学的根拠とともに発信することで、市民の理解が深まると考える。小学校入学前の家庭教育が将来の安定につながることから、是非しっかり取組をすすめていただきたい。

【市長】

- 単発の発信でも、科学的根拠を示しつつ、物語性を持たせる等工夫し、分かりやすく興味を引く形で根強く伝え続けることが大切である。また、「早寝早起き」等の基本的なことも、「なぜ必要なのか」を改めて丁寧に伝え続ける姿勢が重要である。市としても、取り組めることについては積極的に対応していきたい。

【教育長】

- 取組を前進させていくためには、根気強く、繰り返し、多様な手段で情報発信を続ける必要がある。
- 従来のオープンスクールでは多数の内容を一度に伝えていたが、効果を高めるために「生活の大切さ」と「子どもの気持ちを受け止める」ことの２点に重点を絞った。「そうだね」と一旦受け止める姿勢は、子どもの脳を安心させ、

親や指導者も落ち着いて対応でき、柔らかく確実にメッセージが伝わる。

- 家庭教育支援の取組は、関係者全体が意識して連携し、自らの活動に取り入れていくことが大切であり、長期的視点での取組の継続が必要であるとする。

■議事（２）米子市における部活動改革について

米子市における部活動改革について、事務局から資料２に沿って説明。

【委員意見】

- これまでの事務局の短期間での取組（人材バンクの設立、学校展開など）は非常に充実している。改めて確認のためにお話するが、現場における平日と休日の指導の差が、子どもにとっての「困り感」につながることを懸念している。指導者によって子どもが不利益を被ることのないよう、体制の整備と継続的な検証が必要である。また、性被害や暴力の防止は絶対的に優先されるべきであり、教育的意義のぶれない軸をしっかり持っていただきたい。
- 地域特性を活かすことができる大きなチャンスであり、がいな太鼓や万灯、淀江の「さんご節」等、米子市固有の伝統文化を部活動として積極的に取り入れるとともに、市内全域の子どもが参加できる活動として発展させていきたい。また、ボート競技など環境面での地域資源も活用していきたい。
- 子どもや家庭のニーズが多様化していて、一つの学校だけでは対応しきれない場面も増えており、学校の枠を超えた合同活動や民間クラブの活用が進んでいる。そのような中で、今回の取組を機に、地域クラブの認定が試行錯誤を重ねながら前向きに進むことを望む。また、地域文化に関心を持つ子どもも多く、そうした関心を育みながら、部活動が新たな形へと発展していくことを望む。
- 市長の「がいな太鼓のチームが全学校にあると良い」という以前の発言を踏まえ、親団体との連携により各地域への指導者派遣も可能であるとする。中学校の部活動については、競技志向の生徒にとって十分な環境ではなかった可能性もあり、特に中学校３年生の大会後から進学までの空白期間における課題もある。やる気はあるが受け皿がない生徒向けに大人も交えたクラブ活動等の多様な受け皿が必要である。
- 地域の伝統文化である、がいな万灯や盆踊りが、子どもたちの郷土愛を育む機会となっている。大人と子どもと一緒に楽しむ伝統行事を地域ぐるみで継承していくことが必要。また、このような活動が内申書に記載され、評価されるような仕組みづくりが必要である。部活動は、精神的成長や仲間との絆を育む重要な場であり、これまでご尽力いただいている教員方への感謝とともに、今後の部活動指導員により子どもたちの技術向上を期待したい。

【市長】

- 地域文化の継承に尽力する地域住民に感謝するとともに、太鼓や万灯等の伝統活動の広がりに向けた仕組みづくりを検討する。
- 中学３年生が引退して高校で再開するまでの半年間の空白により、パフォーマンスが低下する問題がある。部活動改革は、こうした従来の課題に対応する好機であるとする。
- 部活動の意義については、単なる楽しい面だけでなく、苦しい経験や人間関係の学びの場である。地域展開後も部活動指導に情熱を持つ教員が力を発揮できる仕組みを整備し、米子市の教員が自らの技能を活かしながら、子どもと共に成長できることを魅力として発信できるような体制づくりをめざす。

【教育長】

- これまで試行錯誤を重ね、多くの調査や協議を行ってきた。今年は認定クラブ・公認クラブの設立を必ず実現し、前進する年としたい。まず、一つ立ち上げ、次第に数を増やしていく考えである。
- 文化活動も子どものニーズを踏まえ、認定クラブ・公認クラブに取り入れる方向で検討する。
- 中学 3 年生の夏の大会後から春までの空白期間に関しても、週末の活動等の支援策を検討していきたい。

■議事（３）不登校対応の現状と今後について

不登校対応の現状と今後について、事務局から資料 3 に沿って説明。

【委員意見】

- 令和 4 年度から 6 年度にかけての小学 1・2 年生の不登校増加を懸念する。家庭教育の充実が重要である。特に「早寝・早起き・朝ご飯」を徹底し、子どもたちの生活リズムが整わなければ新しい学校環境に適応しにくいのではないかと。夜遅く働く保護者もいる現代社会の中で、子どもの体調やリズムに配慮した生活習慣が重要であり、ストレス軽減や「そだね運動」のような子どもへの寄り添いが必要である。また、校内サポート教室について、すべての学校で公平に利用できるよう拡充していただきたい。
- 生活リズムの乱れが不登校の要因にあると考える。また、昔よりも学校を休むことに対する保護者の抵抗感が薄れたことも要因だと考えられるため、保護者の意識改革が必要である。さらに、不登校対策には「子どもの視点に立った安心で楽しい学校づくり」が重要であり、教員の資質向上や子どもの意見を積極的に取り入れる必要がある。
- ぷらっとフォームや校内サポート教室の重要性を痛感した。ぷらっとフォームは多様なプログラムで子どもの体験機会を広げており、校内サポート教室は中学校全校にあり効果を上げているため、不登校の未然防止の観点からも小学校にも早急に全校設置を推進していただきたい。地域特性を活かした多様な体験機会の創出、官民連携の強化により、子どもが「好きなものに出会うチャンス」を増やしていただきたい。また、子どもに対する政策について、予算をしっかり使っていただきたい。
- 数字上は低学年の不登校が増えているが、幼稚園等と小学校の連携により、元気に登校する児童も多い。親への不安や依存が子どもの登校に影響している可能性もあり、保護者の子育て教育や支援体制の強化も重要である。また、地域住民や見守りボランティアを含めた社会全体で子どもを支える環境づくりが必要である。

【市長】

- サポート教室の充実については引き続き検討する。ぷらっとフォームでは、定期的に通う習慣づくりが学校復帰のきっかけとなっており、生活リズムの確立が大切だと考える。生活リズムの整備には家庭教育との連携が不可欠で、特に早寝・早起きの習慣づくりが重要である。
- 「学校づくり」について、子ども達の意見を参考にさせていただくとともに、地域の特色を活かした体験活動も具体的な行事の企画としてできることを考えたい。
- これまでの取組により、一定の成果が出始めている。今後も家庭支援の充実を進めるとともに、多方面と連携し、引き続き不登校対策を進めていく。

【教育長】

- これまでの支援策が一定の成果を上げていることについて、協力に感謝する。
- 未然防止のためには家庭への支援や子ども同士の「楽しく安全な学校づくりサミット」の取組が重要であるとともに、

授業の質向上も欠かせず、「できる・分かる・楽しい」と感じられる授業づくりに教員が全力を注いでいる。困難を抱える子どもへの適切な声かけが重要であり、今後も教育現場での取組を強化していく。